

現代、

ム
ジ
ナ

変化

の奇妙な話

サンプル版

「ムジナに化かされる」ともよく言われるが、ムジナとは本来はアナグマの事を意味している。

が、小泉八雲氏の作品「のっぺらぼう」あるいは「ムジナ」の話において一説としてこう説明している。

人を化かす獣、アナグマ、イタチ、タヌキ、ハクビシンを指し示す意味で「ムジナ」と呼ばれている。

江戸以前の頃よりこの動物的な種類を知る事もなく、またそのような学術的見分が無かったことにもよる。

そのため、「ムジナ」という言葉は非常に使いやすく、そして、非常に広義的な意味としても扱いやすい便利な言葉でもあった。

本作品の前に小泉八雲氏の「のっぺらぼう」あるいは「ムジナ」の話に触れるのは、このお話の舞台となった場所というのが、何の因果かは解らない。

しかし、体験された方の話では「上野」方面との事である。

まずはこの話を始める前にほんの少しだけ頭の片隅に入れて置く事で少し面白く感じるかもしれない。

この話は行きつけのお店となったところで頂いた話である。

この話をしてくれたのは外国の方が経験された話であり噛み砕き話を整理するのに時間がかかってしまった。

事のお話はもう15年ほど前に遡る。2011年ごろとの事。

当時、彼女がまだ大学に通っており、その日は気を許せる友人とファミレスで食事を済ませドリンクバーでジュースを飲みかわしながら遅くまで話に花を咲かせていたそうだ。

大学生という事もあって長い時間ファミレスにお邪魔する事は誰にでもある良くある話。

続きは本編で